

令和7年度 学校評価表

九州国際大学付属高等学校

一、学校運営基本方針

校訓	清く 明るく 逞しく
教育目標	平和で民主的な社会の形成者としての必要な資質を備えた、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する
目指す学校像	一、生徒の夢と目標を実現できる進学校 一、他を思いやる豊かな心を育む学校 一、文武両道を実践する学校 一、時代をリードする国際性を育てる学校
目指す生徒像	一、高い知性と確かな学力を持つ生徒 一、社会の一員としての礼儀、マナーを身につけた生徒 一、心身ともに健やかで逞しい生徒 一、深く考え、自ら行動する聡明な生徒
日々の実践	一、さわやかな笑顔で挨拶を交わそう 一、礼節ある言葉づかいを心がけよう 一、服装を整え、生活マナーを大切にしよう
教育の特色	知・徳・体のバランスのとれた人間の育成を実現するために、「生活指導」「進路指導」「総合的な学習」の各次元からなる全人教育を行い、生徒一人ひとりの個性と能力を開発することで、生徒の夢を実現する。また、「生徒にとって最大の教育環境は教師自身である」をモットーに教員改革を一切の基本としていく。

令和6年度 年間教育活動目標

生徒の目を輝かせる教育活動の推進

二、各部の年間基本方針と自己評価 総合評価 A

※評価基準: A:よくあてはまる/B:ややあてはまる / C:どちらともいえない
D:あまりあてはまらない / E:全くあてはまらない

■教務部 評価 A

目標	〈学問的魅力があふれる授業〉〈日々取り組みたくなる課題〉〈深い学びを秘めた考查〉 ①年間指導計画の作成および共有 ②授業参観 および 授業参加 の活性化 (MetaMoji Classroom) ③出席管理の徹底 (タブレットオプション) ④定期考査の時間増加と内容の充実 ⑤定期考査ごとのクラス別分布表の作成 ⑥生徒の情報共有⇒年7回の生徒支援委員会の開催					
基本方針	具体的施策・目標	自己評価				
1. 授業時数の確保	授業の開始・終了時間の厳守(チャイムと同時に開始、終了する)	A	B	C	D	E
	出張・年休・遅刻・早退の処理(時間割変更、振替、取得の推進)	A	B	C	D	E
2. 授業の充実	他の教員の授業見学	A	B	C	D	E
	研究授業の実施	A	B	C	D	E
	教室内の整理・整頓	A	B	C	D	E
	授業アンケートの活用	A	B	C	D	E
	学外研修への参加	A	B	C	D	E
	学内研修の実施	A	B	C	D	E
3. シラバスの作成	各学年、クラス別の作成(難関・S/特進・準特進/進学)	A	B	C	D	E
4. 試験問題の管理	問題の作成・提出(期限の厳守、管理)	A	B	C	D	E
	試験時間の確立(5分前の着席、開始前の問題配布完了)	A	B	C	D	E
5. 生徒の出欠管理	出席簿・教務手帳への正確な記入	A	B	C	D	E
	生徒の欠席・遅刻等の減少化	A	B	C	D	E
次年度への課題	現生徒の状況に合わせた教育課程の変更 補講体制の確立					

■生徒指導部 評価 B

指導部方針	①挨拶 ②公共でのマナー遵守 ③美化					
基本方針	具体的施策・目標	自己評価				
1. 挨拶の励行	登下校時、来客、校外、自宅での挨拶の励行・習慣化	A	B	C	D	E
2. 問題行動への適切な対応	確実な報告・連絡・相談	A	B	C	D	E
	素早い対応	A	B	C	D	E
	教科担当と担任の連携	A	B	C	D	E
	家庭との連携・連絡	A	B	C	D	E
	日頃のHRでの生徒指導	A	B	C	D	E
	学年集会等での生徒指導	A	B	C	D	E
	処分者・違反者の減少化	A	B	C	D	E
	いじめアンケートの実施・対応	A	B	C	D	E
3. 自転車通学の安全指導	安全教育指導の実施	A	B	C	D	E
	事故件数の減少化	A	B	C	D	E
	許可申請・管理・保健加入の推進	A	B	C	D	E
4. 登下校指導での安全確保	週番割り当ての実施状況	A	B	C	D	E
	笑顔での指導(明るく、厳しく、優しさのある声かけ)	A	B	C	D	E
	教員から生徒に積極的に挨拶を行う	A	B	C	D	E
	通学路の厳守・徹底	A	B	C	D	E
	通学路周辺の清掃の実施	A	B	C	D	E
5. 安全なスクールバスの運営	枝光駅とスペースワールド駅の選別の徹底	A	B	C	D	E
	駅前での指導・安全な乗り降りの励行	A	B	C	D	E
	学年別利用制限の励行	A	B	C	D	E
6. いじめアンケートの活用	いじめアンケートの実施・把握・活用	A	B	C	D	E
	いじめ事象の減少化	A	B	C	D	E
次年度への課題	問題行動の減少 支援を必要な生徒への対応による問題行動の予防					

■進路指導部 評価 A

基本方針・目標	①ミスマッチのない進路を獲得する。 ②自ら必要なことを見つけ、行動する自走の推進を行う。 ③指導環境の整備する。 ④探究活動を推進する。					
基本方針	具体的施策・目標	自己評価				
1. 生徒への進路情報の提供	進路ガイダンスの内容の充実	A	B	C	D	E
	校内進路行事(大学進学説明会・出前授業等)の充実	A	B	C	D	E
	外部の進路ガイダンスへの呼びかけ・参加	A	B	C	D	E
	LHRでの進路研究の推進	A	B	C	D	E
	進路指導質の活用の推進	A	B	C	D	E
	進路指導室の担当教員の徹底	A	B	C	D	E
2. 教員の指導力の向上	コース主任制度の活用(コース内の格差の縮小)	A	B	C	D	E
	教員の大学入試研究の推進	A	B	C	D	E
	外部研修(予備校主催等)への積極的参加	A	B	C	D	E
3. 夢橋の活用	HRでの自己マネージメントの管理・指導	A	B	C	D	E
次年度への課題	学校推薦の時期前倒の円滑な運営 校外模試実施前の手順変更へ円滑な移行 進路サポートにおける大学と連携(特に「九州大学未 創成科学者育成プロジェクト」の活用) 「九大100名計画」に向けた取り組み推進 教務部との連携を強化し、教育課程の見直しに着手					